

令和5年度 学校自己評価表（計画）

学校運営計画				
学校運営方針		全教職員の英知を結集して取り組み、生徒に“生きる力”を身につけさせ、自立した人間として社会に送り出すことを目標とするとともに、生徒一人ひとりの適性・能力を生かした進路実現を支援する。		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
・ICT機器を活用しながら『学び合い』を中心とした、生徒個々の理解や進度に応じた授業を行い、協働して粘り強く課題に取り組む姿勢を育んだ。今年度も、引き続き生徒が主体的に授業に臨み、基礎基本の確実な定着を図れるよう支援する。 ・生徒一人一人の個性や特性を、担任・サポート委員会を中心に養護講師やSCと連携を図りながら職員全体で情報共有を密に図り、生徒の進路内定につなげた。今年度も生徒一人ひとりの希望に応じ、組織的に対応して生徒の進路実現を目指す。 ・進路だよりや学校HP、また学校通信を活用し、学校の教育活動の様子や情報を積極的に発信し、学校運営の理解・協力を得ながら、保護者や地域の記憶に残る学校運営を目指す。	1 基礎・基本の確実な定着を図り、生涯学んでいく意欲を培う	(1) 教育のユニバーサルデザイン化を推進し、すべての生徒がわかる授業の展開 (2) 教師、生徒の対話をとおして、生徒が自ら学び、思考する授業の展開 (3) 基礎基本の確実な定着を目指し、生徒同士が教え合い、学び合う授業の展開		
	2 生徒一人一人の個性の伸長を図り、粘り強く課題に取り組む姿勢を育む	(1) 各種体験活動や進路講演会等をおとしたキャリア教育の充実 (2) 授業における発表活動、プレゼンテーション活動等による表現力、問題解決能力の涵養 (3) 生徒一人ひとりの個性に応じた、幅広い視点を持った進路指導の推進		
	3 他者との協働をとおして、豊かな人間性や社会性を涵養する	(1) 部活動や学校行事をはじめとする教育活動全般に、生徒が意欲的に取り組むための支援 (2) 人間関係形成能力を伸張するための、グループエンカウンター等、各種取組の実践 (3) 自己有用感を高めるため、地域活動、ボランティア活動など、地域社会の一員としての役割を果たす活動の推進		
	4 清潔で落ち着いた学習環境の下、すべての生徒が安心して過ごせる学校づくりを進める	(1) サポート委員会を中心とした、生徒一人一人を支援する取組 (2) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく組織的な指導の実践 (3) メディアリテラシー、SOSの出し方等の授業実践の充実		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
①基本的生徒と安全教育の充実 ②生徒会活動の充実 ③個に応じた実効ある支援の実施	家庭や地域との連携理解のもとで指導に当たる。	規律ある高校生活を送るよう、身だしなみやルールの遵守など規範意識の啓発に努める。 バイク実技講習会（年1回）を実施する。 毎学期始めに頭髪服装検査を実施する。		
	校舎内外の環境整備並びに、健康意識の向上を図る。	清掃習慣の定着と校舎内外の美化に努める。 生徒の実態に合わせた保健講座を実施する。 保護者との情報共有に努め、必要に応じて専門機関との連携を図る。		
	生徒の自主的な活動を充実させる。	保健だよりを適宜発行し、健康に関する知識と理解を深める。 体育祭や文化祭などの学校行事毎に、クラスで実施計画書を作成し、計画段階から生徒が主体的に取り組めるようにする。 生徒会総務が主体的に行事の運営ができるよう、各行事前に適宜、総務委員会を開催する。		
学校生活への適応を支援する。		教職員間で生徒情報の共有化を図るため、職員会議時に「生徒情報交換会」を実施する。 特別支援教育研修会（年1回）を実施する。 派遣されたスクールカウンセラーを有効に活用しながら、自立支援の必要な生徒及び保護者を対象とした教育相談を随時実施し、必要に応じて外部関係機関と連携を図る。		
①基礎学力の定着 ②授業改善の取組	学習意欲の向上、学習習慣の定着を図る。	年度始めにシラバスを生徒に提示し、年間計画と評価方法を周知するとともに、シラバスに基づいた計画的な授業を実施する。 学期ごとに、成績不振者と希望者に対する補習を実施する。		
	教育課程及び授業内容の充実を図る。	ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実施する。 年間を通じて授業公開を実施する。また年2回の授業公開月間を設け、授業改善の研修会を実施する。 教育課程に則した学習計画を作成する。		
	進路意識の啓発とキャリア教育の充実	進路だよりを発行し、生徒や保護者への情報提供に努める。 外部と連携しながら、一人ひとりの進路希望に応じた指導の充実を図る。 進路希望調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに適切な指導に生かす。 学年との連携を密にし、指導の徹底と生徒に関する情報の共有化を図る。 生徒・保護者を対象にした進路意識啓発のための講演会を開催する。 進路ガイダンスを年適宜開催し、情報収集に努めるよう指導する。 総合的な探究の時間における進路指導の充実を図り、キャリア教育を推進する。		

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
	企業見学会、オープンに実施する。	3学年全員を対象に企業見学会を実施し、振り返りを行うことで、進路意識の啓発を図る。 進学先の理解を深めるため、オープンキャンパス等へ参加するよう指導し、進学先の向こう側を見据えた指導を行う。		
	進学希望達成のための模試、補習を実施する。	進路先に応じた模試を計画的に実施し、課題を把握するとともに、学力を伸ばすため、補習等を実施する。		
保護者や地域との連携強化	保護者と職員が連携し、諸活動を行う。	保護者面談週間や必要に応じて保護者面談・三者面談を利用し、保護者と職員の相互理解を深めるとともに、共通理解のもとで生徒一人ひとりの問題解決を図る。 PTA役員と協力し、PTA総会・学年PTAなどへの参加者増を図る。 役員会などを通じて研修会等への参加を促し、参加者増を図る。		
	PR・広報活動をより活発にし、本校の認知度を高める。	PTAだよりを年2回発行し、学校の様子やPTA活動の周知を図る。 ホームページを月1回以上更新し、より多くの人に学校の情報を発信する。		
	学校評議員や地域など、外部からの意見を積極的に受入れ、学校運営に生かす。	「地域の声を聞く会」(年1回開催)で指摘された問題点を整理し、生徒のための学校運営に生かす。		
読書指導の充実	生徒・教職員が授業で活用しやすい図書館とする。	国語科と連携して図書館だよりを定期的に発行し、積極的に広報活動を行う。 生徒・教職員にとって必要な資料収集を行い、来館者数の増加を図る。 図書館司書と連携し、図書館の環境整備を進め、図書委員会活動を活性化させる。		
人権教育の推進	生徒の人間関係等に係る課題解決に向けて組織的に取り組む。	「学校いじめ防止基本方針」をより実態に即した内容に適宜見直し、組織力を強化する。 いじめ実態把握アンケートを実施し(年3回)、教職員で情報の共有を図る。 人権に関する生徒対象の講演会、職員対象の研修会を実施し、人権意識の啓発を図る。		
1 学 年				
2 学 年				
3 学 年	①自己管理能力の伸長 ②進路実現に必要な実力の養成 ③進路希望の実現	進路実現に向け情報を収集し、必要な実力を養う。 社会人として基礎となる教養や心構えを育む。	生徒の個別面談を実施し、生徒一人一人の進路希望の実現を支援する。 LHR・「総合的な探究の時間」・放課後の時間を有効に活用し、生徒一人一人の適性を見据えた進路指導や面接・出願指導を行う。 進路指導部主催の講演会を活用して進路情報を発信し、進路意識を啓発する。また、保護者面談を行い、保護者との情報共有に努める。 身だしなみ・挨拶・受け答えなど社会人として求められている所作について指導する。 LHR・「総合的な探究の時間」を活用して講演会を実施し、社会に対する視野を広げ、社会人として必要な教養を身に付けるよう指導する。 生活手帳を用いてメモをとる習慣を身に付けさせ、自己の行動を振り返り、計画的に行動できるよう指導する。	
成果			総合評価	